PBV

ピースボート災害支援センター（PBV）

2023年度 活動報告

2023.4.1〜2024.3.31

［オフィシャルサイト］https://pbv.or.jp/　［英語サイト］https://pbv.or.jp/en/

CLIMATE CRISIS

わたしたちは、気づきはじめています。
この地球がいよいよ限界に近づいてきていることを。

毎年、大気や海水の温度があがり、
台風や豪雨の激しさが増しています。
世界中で、自然災害が増え続け激甚化しています。
国連によると2000年から2019年の20年間で、
世界では7,348件の災害が記録され、
亡くなった方は123万人、
世界の経済損失は2.97兆ドルにもなります。※

ひとたび大規模災害が起これば、
わたしたちの生活や街の機能は破壊され、
社会にあった脆弱さを露呈します。
住まいや仕事を失えば、生活が困窮し
食事や水、トイレが整わない避難生活は、
健康にも被害をおよぼします。

子どもや女性、また、外国人、障がい者など
マイノリティへの影響は計り知れません。
災害対応は、全ての人に共通する
グローバルでローカルな最重要課題です。

※「The human cost of disasters:
an overview of the last 20 years（2000-2019）」UNDRR

CONTENTS

P6 国内外の災害支援
災害に見舞われた地域の回復のために、多様な支援者と共に、被災者のニーズに合わせた支援活動を展開しています。

P14 防災・減災への取り組み
災害に強い社会を創るため、支援人材の育成や防災教育、ネットワークの構築をおこなっています。

災害対応や予防、被害の軽減は、
国連『持続可能な開発目標（SDGs）』
全ての目標に関係します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

People
人間

すべての人に人権が尊重され、尊厳をもち、平等に能力を発揮できるようにし、貧困を終わらせ、ジェンダー平等を達成し、教育、水、衛生、健康的な生活を実現する。

1 貧困をなくそう
2 飢餓をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に

Prosperity
豊かさ

すべての人が豊かで充実した生活を送れるようにし、自然と調和する経済、社会、技術の発展を確保する。

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8 働きがいも 経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを

Cause

市民が助け合わなければ、
もはや災害には立向えない。

Partnership
パートナーシップ

政府や民間セクター、市民社会、国際機関を含む多様な関係者が参加する、パートナーシップにより目標の実現を目指す。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

Planet
地球

責任ある消費と生産、資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応を通して、地球を破壊から守る。

12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう

Peace
平和

平和で、公正で、恐怖と暴力のないインクルーシブな世界を目指す。

16 平和と公正をすべての人に

no one will be left behind

VISION

人こそが
人を支援できる
ということ

ピースボート災害支援センターは、
被災地での災害支援活動や
災害に強い社会づくりに取り組む非営利団体です。
誰しもが、自然災害に遭遇する可能性があります。
国や地域を越えて、すべての人々が
お互いに助け合える社会を創ることが、
困難に立ち向かう力になると信じています。

MISSION

「お互いさま」を
共に歩む

いつ、どこで起こるか分からない災害は、
時に私たちを被災者にし、
時に私たちを支援者にもします。
自分を守り、大切な人も守る。
そして少し遠くの「あの人」を支えます。
私たちは、被災者や被災地域の回復のために、
その文化や営みに寄り添い、支援者として
自発的に関わる多様な人々の想いを
具体的に“役に立つカタチ”にします。

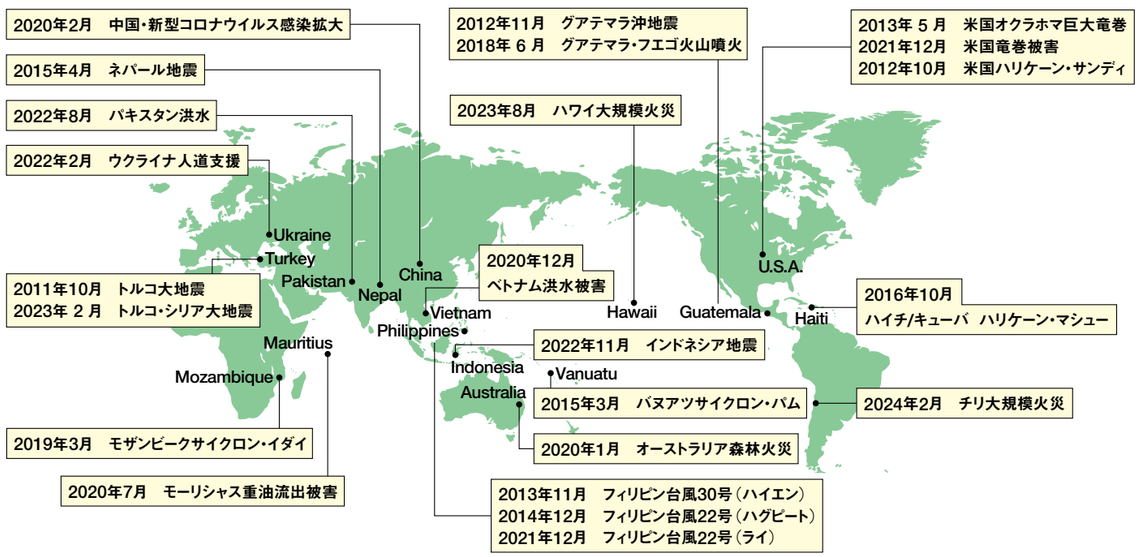
IMPACT

29か国（海外）
78地域（国内）
これまでに支援した延べ被災地数

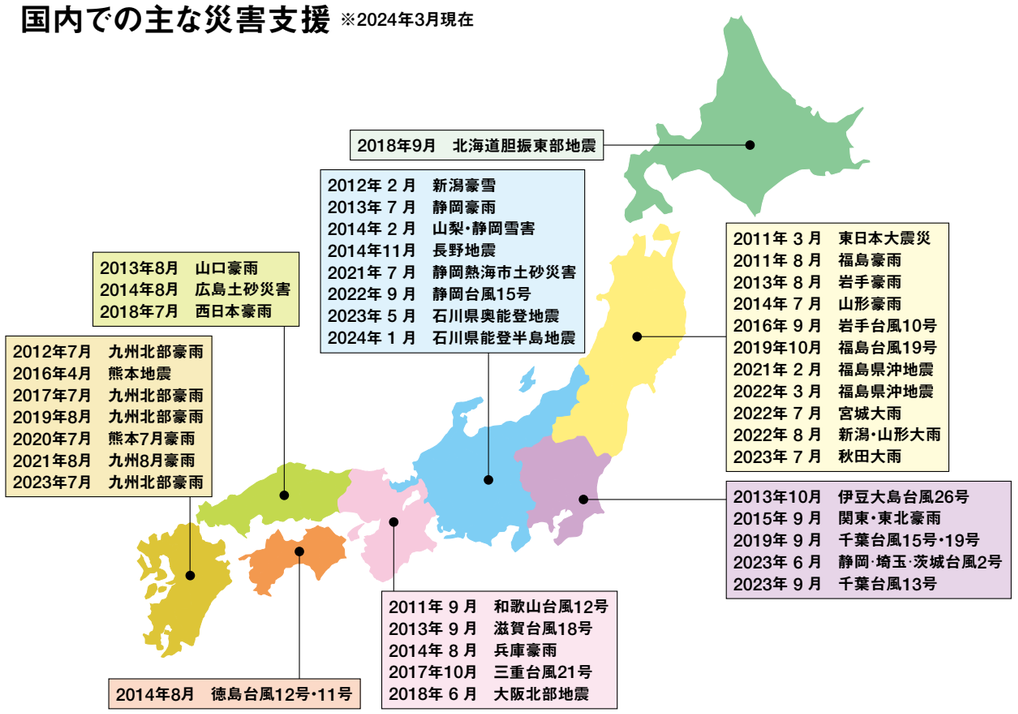
112,098人
共に活動したボランティア・スタッフの延べ人数

9,470人
災害ボランティアトレーニング修了者

海外での主な災害支援 ※2024年3月現在



国内での主な災害支援 ※2024年3月現在



その地域の人たちには、回復力がある

困難な状況にあったとしても、適切なサポートがあれば、
明日に向かう一歩を踏み出せます。ひとつとして、同じ災害はありません。
そして、ひとつとして同じ支援のカタチもありません。
その時、その場所、その人たちに必要な支援を。

ASSESSMENT

- 支援の決定
- 被災地からの支援要請
- 課題把握

↑

- 被災地 現地調査

↑

- 災害発生 情報収集

PREPARATION

- 災害ボランティア事前登録
- 災害ボランティアトレーニング
- 災害支援ネットワーク構築
- 防災・減災教育

SOLUTION

ニーズに合わせた多様な支援活動メニュー

避難生活を支える

- 物資支援
- 衛生環境・感染症対策
- 食事支援（炊き出し）
- 避難所の運営サポート
- 指定外避難先への支援（在宅、車中、自主避難所等）
- 心理社会的支援
- 子ども支援
- 思い出写真の洗浄

住まいの再建

- 清掃活動
- 家屋の応急対応（床・壁への対応、屋根への防水シート張りなど）
- 家屋保全講習

多様な協働・連携

- 災害ボランティアセンターの運営サポート
- 被災者ニーズと支援シーズとのマッチング調整
- 支援団体間調整・連携サポート
- 自治体行政支援

地域社会の 再興

- 仮設住宅支援
- 自然環境の回復支援
- 生業支援／地域産業サポート
- 災害に強い街づくり
- コミュニティ形成サポート

COORDINATION

- 専門スタッフ・災害ボランティア派遣
- 行政・社会福祉協議会・企業・団体の強みを活かした協働
- 支援の基盤を支える寄付者と後方支援

SOLUTIONの実績

（対象期間：2011年3月～2024年3月）

- PBVによる炊き出し提供 **147,571**食
- 炊き出し支援の調整 **925,013**食
- **105**か所の避難所運営サポート
- 災害ボランティアセンター **35**か所の運営サポート
- 支援した仮設住宅 **35,267**世帯
- コミュニティ再生のための公民館・集会所 **263**か所を支援
- **3,664**件の家屋清掃
- 被災した家屋 **473**件へ防水シート張り

SUPPORTERS

企業、団体、個人の方からのご寄付や物資提供、イベントのご協力など、様々なご支援・ご協力

活動期間
2024年1月2日―継続中
活動場所
石川県珠洲市、輪島市、七尾市
活動人数
スタッフ26人派遣、
ボランティア27人／延べ862人
（2024年3月末時点）

2024年石川県能登半島地震

2024年1月1日16時10分に発生した、石川県能登地方を震源とする最大震度7の強い地震により、人的被害は1,540人、住宅被害は81,717棟にものぼりました（2024年3月5日時点）。珠洲市は、2023年5月に発生した地震の影響で復旧作業が続けられており、PBVも発災直後から支援を行っていました。被害は甚大で、断層の動きにより輪島市の沿岸では最大約4メートルも隆起し、被災地では各所で道路の寸断や断水が長期化しています。

食事支援、炊き出し支援調整

1月3日、七尾市で地元住民による炊き出しをサポート。その後、6日から断水により調理ができない珠洲市の避難所、また小学校の給食として毎日最大300食の炊き出しを実施し発災から1か月間で4,000食以上を提供しました。2月からは、珠洲市内の直小学校の学校給食のほか、七尾特別支援学校珠洲分校や珠洲市社会福祉法人「すず椿」が運営する障害福祉サービス事業所の昼食支援を連日行いました。
また、珠洲市、輪島市では、地元自治体からの協力要請を受け、炊き出し等の支援の申し出を、避難所や支援拠点に繋ぐ支援調整を担いました。

物資支援

珠洲市・輪島市の指定避難所、自主避難所、在宅や車中泊避難の方々に、発災直後から水や食料、簡易トイレ、カセットコンロ、発電機や燃料、毛布などを配布。その後も状況に合わせ、災害対応アライアンス（SEMA）をはじめとする企業や団体の皆様からの協力を得て、衛生用品や、日用品のほか、自炊用の食材などもお届けしています。
また1月末から珠洲市では「道の駅すずなり」などで物資配布を開始。地域の支援拠点として、各種支援情報を得ながら住民同士がコミュニケーションをとれる場として定期的に開催しています。

避難所支援ほか、自治体など各種団体との連携

連日、行政機関や自衛隊、社会福祉協議会、連携企業・団体等と共に活動しています。珠洲市では、珠洲市社協福祉協議会と連携して災害ボランティアセンターの運営サポートを行っています。輪島市では、行政支援の一環として避難所・避難生活のアドバイザーを担いながら、避難所への段ボールベッドの導入・区画整理、移行集約のサポートや食事の導入調整・手配など避難生活に欠かせない環境整備を実施。
また、全国からの様々な支援の申し出と現地のニーズをマッチングする機能として、各種支援調整の窓口を設置し運営しています。行政や多様な企業団体等と連携し市域全体へ支援をお繋ぎしています。

迅速な初動対応から、さまざまな支援へ

発災日より情報収集を開始。翌2日より先遣チームを現地に派遣。2月からはPBVにて災害ボランティアの登録をスタートし、珠洲市にてボランティアの受け入れを開始。3月にはラテンアメリカ・カリブ海諸国の駐在大使グループ（GRULAC）16名が被災地を訪れるコーディネートを担いました。また企業ボランティアとして小学生向けの学用品を都内でパッケージにする支援や、全国で街頭募金も実施しています。

今後の支援予定

実施中の支援内容に加え、長期的な避難生活を支えるため、今後も避難所の運営サポートや入浴支援も展開。また、被災者の生活再建に関わる家屋の応急対応やコミュニティ形成のお手伝い、仮設住宅など新たな住まいの生活に欠かせない家電支援の提供も進めています。引き続き、地元団体や関係機関、支援団体らと連携し、現地のニーズに合わせた支援活動を行っていきます。

2023年奥能登地震

2023年5月5日、石川県で震度6強の強い揺れを観測する地震が発生。住家被害は1,417棟。ほとんどが珠洲市に集中しました。5月6日より先遣スタッフ2名を珠洲市に派遣。珠洲市社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターへの支援を開始するにあたり、5月9日よりスタッフを2名増員し、技術系ニーズの調整と、被災家屋の応急対応を開始しました。その後、家屋対応にあたる連携団体と協力をし、珠洲市内の家屋対応、生活再建に向けてのサポートを行いました。

活動期間
2023年5月6日―7月15日
活動場所
石川県珠洲市
活動場所
スタッフ4人派遣／延べ203人

PBVの災害支援について

輪島市災害対策本部 広報班長
輪島市企画振興部長
山本 利治さん

2024年1月1日、輪島市で発生した地震は未曽有の大震災であり、輪島市防災計画で設定された災害規模をはるかに上回ったことで、指定避難所開設や物資の配布などが一部防災計画どおり機能せず混乱をきたしてしまいました。そうした中、PBVは発災後、いち早く輪島市へ入り、不足する物資の供給や炊き出し支援を主導していただくなど、危機的な状況の中、輪島市民の命を守っていただいたことに輪島市としては感謝の念に堪えません。
私は、3月末まで避難所担当職員の班長として避難所業務に携わっていましたが、PBV職員からきめ細かな指導や指示をいただいたおかげで、避難所では大きなトラブルもなく、避難者は少しずつ次の生活拠点へ移りはじめております。私にとってPBVは「最強の支援者」であると同時に「心の支え」でもあります。
引き続き避難所運営をはじめ仮設住宅での生活支援、全国からの支援団体の受け皿など、輪島の復興支援に特段のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

活動期間
2023年7月22日—2024年2月29日
活動場所
秋田市
活動人数
スタッフ9人派遣（インターン含む）

2023年7月大雨

秋田支援

7月14～16日にかけて、東北地方の北部を中心に大雨被害が発生。秋田県内では記録的な大雨となり、各地で河川が氾濫し家屋の浸水や土砂崩れが発生。秋田県内全域で半壊、床上浸水、床下浸水を含む計7,039棟の住家被害となりました。（2023年12月26日時点）

越冬に向けた中長期的な支援

秋田市社会福祉協議会や現地団体と協力し、8月以降、楢山地区と東地区に地域支援拠点を設置。物資配布、家屋対応や生活再建の相談、支援情報提供など困りごとの相談、気軽に話ができる場所を設け、サロンやリラクゼーションの場の提供などを定期的に行いました。
また、水害にあった家屋のための家屋対応説明会（3か所10回実施のべ152名参加）を連携団体と実施。物資支援では食料品や日用品、衣類のほか、11月初旬から連携団体の協力のもと、衣類や暖房器具の配布など越冬に向けた物資支援のサポートを行いました。
10月16日の秋田市災害ボランティアセンター閉所後も、秋田市社会福祉協議会より依頼を受け支援を継続し、関係各所と連携し福祉的支援が必要な住民への対応を包括的に行いました。

地域とともにおこなうコミュニティ支援

長期的な生活再建を支えるため、安心して相談や情報交換ができ、地域の方々同士が繋がれるコミュニティ支援を行いました。
サロンでは物資支援を行うとともに、秋田市社会福祉協議会や地域の飲食店、団体と連携し、PBVのキッチンカーを活用した軽食提供やリラクゼーションを企画しました。週2回2か所で青空サロンを開催し、豆腐バイキングやお茶っこ会を実施しました。リラクゼーションは、日々の疲れを癒し、リラックスしていただけるようLUSHイオンモール秋田店のスタッフさんに協力いただき、支援拠点にて6回にわたるハンドマッサージを実施しました。住民同士が再会を喜びあい、近況を共有する地域のコミュニケーションの場となりました。

水害による被災家屋の対応

8月からは、秋田市内にて浸水した家屋の泥出しや重機を使った土砂撤去など技術的な対応を実施。発災から3ヶ月が経過した10月になっても被災者の在宅避難生活が続きました。東北地方特有の寒さ対策として、仮床張りなど長期的な居住環境改善支援を行いました。また秋田市や秋田市社会福祉協議会から協力要請をうけ、被災者の生活再建にむけた「見守り支援」の体制づくりをしました。

新プロジェクト「FOOBOUR（フーバー）」

能登半島地震にて

2023年12月7日、キッチンカーを活用した新プロジェクトの開始に向けて佐賀県・大町町と協定を結びました。「FOOBOUR（フーバー）」とは、FOOD（食事）とHARBOUR（港）を組み合わせた造語です。車内に調理設備を持ち、災害発生時には被災地にて、1日最大2000食の温かい食事を提供することができます。平常時は「コミュニティフリッジ（公共冷蔵庫）」とも呼ばれる無人のフードバンクとして活用し、佐賀県内のひとり親世帯を対象に、1か月のべ100～200世帯に食事や生活用品を提供します。
秋田の水害では、秋田市社会福祉協議会や地域の飲食店・団体などと連携し、食料品を提供しました。また、2024年能登半島地震の発災翌日には佐賀県より物資を積み込み現地入りし、炊き出しを提供する車両としても活用しています。
FOOBOURは、「いつでも、どこでも、食の支援」をコンセプトにPBVが新たに始めたアイディアの詰まったプロジェクトです。佐賀県へのふるさと納税で応援することができます。

2023年全国の水害対応

2023年度も多くの場所で水害被害が起きました。6月の台風2号では静岡・埼玉・茨城の3県にスタッフを派遣し、7月10日からの九州北部豪雨では福岡県うきは市で床上浸水の被害を受けたお宅の家屋対応を中心に支援をしました。9月の台風13号では記録的な大雨に見舞われた千葉県茂原市で220食分の食事を提供するなどの支援を行いました。頻発する水害に対して、迅速にスタッフを派遣し、現地ニーズに合わせた支援を実施しました。

継続的なコミュニティ支援（2020年7月豪雨）

2020年7月豪雨の被害をうけた大分県九重町の金山公民館に、UDN SPORTSのご支援により備品支援をおこないました。2021年度までにも支援を実施しており、継続的なサポートにも力をいれています。

活動期間
2022年3月1日―継続中
活動場所
ウクライナ、ルーマニア

ウクライナ人道支援

2022年2月24日、ロシア軍によるウクライナへの侵攻が始まり、多くの方が避難を余儀なくされました。侵攻後、隣国ルーマニアには多くのウクライナ人が避難しており、約8万人が避難生活を送っており、その大半が女性、子ども、高齢者です。PBVはルーマニアに拠点を置くNGOとともに避難者の支援活動を行っています。
その後、戦争の長期化にともない、受け入れ国の支援策の変化とともに、避難者は避難先で長く暮らすための生活手段を手に入れなければならない段階にきています。

隣国・ルーマニアのNGOとの連携

2024年3月、PBVはルーマニアへスタッフを派遣し、パートナー団体Notorious Learning Projectsを訪問しました。彼らが運営する避難民支援センター「ドブラ・ハタ」では、ウクライナからの避難民への直接の物資提供や生活面の支援をはじめ、毎日100～150家族が利用する支援拠点となっています。訪問中には、ウクライナ避難民と東京の若者とを繋いだオンライン交流イベントを実施したほか、活動継続のための運営支援に向けた打ち合わせや、避難者からの聞き取りなどを行いました。

支援が必要なときにとても助けられました

Notorious Learning Projects 代表
パトリシア・クドウさん

2023年度は皆様からのご支援が不可欠でした。私たちのセンターを訪れる人数は増えていたものの、支援は限られていたからです。助けを求めて来られる難民には、子ども連れの母親、ウクライナでは受けられない治療を継続するがん患者、退職者、身体障害者などがいました。皆さまのご支援のおかげで、私たちは建物を維持し、基本的な食料、衣類、生活必需品の提供など、多く活動を続けることができました。それと同じくらい重要なのが、クラブ活動、セラピーセッション、賃貸アパート探しや仕事探しのお手伝いなどです。私たちのセンターはひとつの活動に特化していないため、非常に忙しく、複雑でした。車椅子やベビーカー、ベッドが必要な方への支援も需要がありました。お金ではなく物品の寄付も、多くの家族にとって非常に重要なものです。
このような残酷な戦争に対して行動を起こすことは非常に意義深いことです。皆さま一人ひとりに改めて感謝申し上げます。

トルコ・シリア大地震

活動期間
2023年2月7日―継続中
活動場所
トルコ（ハタイ県、ガジアンティップ県）

2023年2月6日午前と午後に、トルコ南東部カフラマンマラシュ県にてM7.7、M7.6の地震が連続で発生。広範囲で建物倒壊など大規模な被害があり、その後も21日のM6.4、M5.8の地震を含む強い余震が続きました。

現地にスタッフを派遣、支援を継続

2月25日に先遣スタッフ2名を派遣。現地NGO ASAR Humanity、Türkiye Diyanetの協力を得て、衛生用品の配布50セット、寝袋13個、ソーラーランタン30個をお届けし、400食の炊き出しを支援しました。7月8日には、長期的支援に向けた協力調整のため再び現地を訪問。現地NGO Nirengi Associationと連携し、9月頭に新学期を前に100名の子どもに学校用のバッグや文具セットをお届けしました。また被災者の相談支援、被災した子ども（3～12歳）向けアートセラピー、避難民向けの法律相談、カウンセリング、防災研修などを開始しました。

ハワイ大規模火災

2023年8月8日未明以降、次々と島内で火災が発生。ハリケーンに伴う強風にあおられて市街地に燃え広がり、死者97名以上、2,200以上もの建物が損壊しました。PBVは20日にスタッフ合計3人を現地に派遣し、World Central Kitchenを通じて約700名を対象に食事支援を実施。また、コミュニティスペースであった仏教寺院や歴史的建造物などが失われており、PBVは現地NGO Japanese Cultural Society of Maui（JCSM）を通じ、正月に向けたコミュニティイベントの開催を支援しました。

活動期間
2023年8月8日―2024年3月末
活動場所
ハワイ州マウイ島

チリ大規模火災

活動期間
2024年2月6日―継続中

2024年2月2日、南米のチリ中部の沿岸地域などを中心に大規模な森林火災が発生しました。165件の火災が相次ぎ、少なくとも131名以上が亡くなりました（2月7日時点）。PBVではバルパライソ日系人協会を通じて、被災した住宅の修繕と国立植物園の復旧支援を行っています。

過去の災害に学び、未来をつなぐ

研修・講演のご依頼
好評受付中！

「防災・減災教育プログラム」に関して、詳しくはPBVウェブページをご覧ください。
https://pbv.or.jp/seminar/

防災・減災教育

1,386回実施 **54,959**人受講（2011年～2024年3月）

実際の災害現場での活動から学んだ経験やノウハウを、研修や講演会などを通じて全国に届けています。
過去に起こった災害からの学びを共有することで、より具体的な災害対応や事前の対策を検討することができます。

ネットワーク構築

課題が複雑化していく中で、ひとつの組織でできることは限られています。より社会の広い範囲での課題解決が進むように多様なセクターと連携・協働することで、コレクティブインパクトを目指しています。国内外の様々な階層からなる21のネットワークに加盟しています。

最前線を担う行政・社会福祉議会

研修・講演実施 **54**回（2023年度）

災害対応と防災の最前線を担っているのが自治体や社会福祉協議会の職員。最大限力が発揮できるよう、事前に避難所運営研修や災害ボランティアセンター運営研修などを共に実施しています。

【これまでの実施一例】

内閣府防災／全国社会福祉協議会／北海道社会福祉協議会／東京都社会福祉協議会／大分県社会福祉協議会／大阪市社会福祉協議会／石巻市社会福祉協議会／青森県／群馬県／東京都／新宿区／福岡市／など

対応の幅を広げる企業・団体・学校

研修・講演実施 **27**回（2023年度）

社員や学生が災害に遭った時を想定した研修や支援の担い手となる災害ボランティアのトレーニングを実施しています。

【これまでの実施一例】

立教大学／関西大学／東京海上日動保険株式会社／株式会社モンベル／グーグル合同会社／日本IBM株式会社／日本財団／日本赤十字社／青年会議所／など

身の回りの人を守る地域・個人

自分自身や家族、地域の人たちを守るため、幅広く個人や地域の方たちに向けた講座や研修を実施しています。災害対応や防災の裾野を広げ、お互いに命を守れる担い手を増やしています。

実践知を社会 に還元する

被災地
支援実践

課題整理
検証・評価
調査・研究

研修・講演
執筆・発表

国境を越えた国際支援ネットワーク

世界各地に人道支援を届け、つねに支援の質の向上を目指しています。各国の災害経験や対応を共有するため、日本の経験も発信しています。2015年の第3回国連防災世界会議 in 仙台では市民防災世界会議の事務局を担いました。

国連防災機関（UNDRR）Making Cities Resilient:My City is Getting Ready（災害に強い都市の構築キャンペーン）／Global Network of Civil Society Organisations for Disaster Reduction（GNDR）／ジャパン・プラットフォーム（JPF）／防災・減災日本CSOネットワーク（JCC-DRR）／国際協力NGOセンター（JANIC）／NGO安全管理イニシアティブ（JaNISS）／支援の質とアカウンタビリティ向上ネットワーク（JQAN ）

連携の結節点をつくる日本全国ネットワーク

日本の災害支援では、三者連携（行政・社協・支援団体）が定着しつつあり、全国のネットワークが場づくりやつなぎ役となっています。また、企業と支援活動もつないでいます。テーマごとに各組織が協力し集めた知見をまとめ発表しています。

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）／日本NPOセンター（JNPOC）／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）／震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）／民間防災および被災地支援ネットワーク（CVN）／緊急災害対応アライアンス（SEMA）／国民生活産業・消費者団体連合会（生団連）／災害支援DXイニシアティブ／みんなの炊き出し研究所

地域に根差した都道府県・市区町村ネットワーク

最も現場に近い地域では、具体的な連携や対策を平時から検討しています。

災害協働サポート東京（CS-Tokyo）／女性防災ネットワーク・東京（GDN－T）／おおさか災害支援ネットワーク（OSN）／佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）／新宿NPOネットワーク協議会

避難所運営の人材育成、3年間の事業終了

PBVでは、ジャパン・プラットフォーム（JPF）による休眠預金等活用事業「コロナ・災害常態の中の新しい災害対応準備」の助成を受け、「避難所運営の人材育成と支援調整のための全国ネットワークを形成する」事業を2021～2023年度の期間に実施しました。近年の災害の激甚化による避難所開設期間の中長期化とその運営や支援調整のスキルを持つ人材不足による避難所運営の課題に対応するため、避難所や避難生活における課題整理と分析、研修ツールの開発、支援調整のツール作成に取り組みました。

過去に直面した避難所運営支援における課題や対応を整理・分析するとともに、全国の自治体にアンケートを展開し、行政側の避難所担当職員が抱える課題の把握を行いました。その結果も踏まえ、より実践的な2種類の研修ツールを開発し、モデル研修を実施しました。NPO等の専門家と議論を重ね、内容を協議し、2024年奥能登地震における事例も盛り込んだガイドラインとして執筆・編集・公開を予定しています。

アカウンタビリティ・セルフチェック

国際協力NGOセンター（JANIC）のアカウンタビリティ・セルフチェック（ASC）を実施しました。日本のNGOが市民や社会から信頼される組織として発展するための自己診断ツールです。JANICによるアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について自己審査を行いました。

SUPPORTERS

LINEヤフー株式会社
CSR本部 災害支援推進部
SEMA事務局長
藤岡 久子さん

緊急災害対応アライアンス「SEMA」（シーマ）は、民間企業と市民団体が連携し、日本国内において被災地支援を行うための仕組みで、LINEヤフー株式会社が事務局を務めています。PBVの皆さまとは、以前からSEMAの一員として、自然災害による被害への支援で連携をさせていただいております。2024年1月1日に発生した能登半島地震においても、被災地のニーズを調査し、民間企業から提供された物資を適切な場所と人へ届けるという、とても重要な役割を担っていただきました。PBVが行うきめ細やかで、住民に寄り添った支援活動から学ぶことはとても多く、私たちにとって非常に心強い存在です。これからも、PBVの持つ豊富な経験と専門知識を活かした支援が、被災地の復興に大きく寄与することを期待しております。SEMAとしても、被災地の一日も早い復興を支援するために、引き続き連携して効果的な被災地支援を目指していきたいと考えています。

ピースボートクルーズ石巻寄港

2023年7月30日、4年ぶりにピースボートクルーズが石巻に寄港しました。大漁旗やジュニアジャズオーケストラの演奏、石巻市長からの挨拶などで迎えてくださいました。東日本大震災の伝承のツアーでは復興祈念公園を訪れ、震災遺構「門脇小学校」、震災伝承交流施設「MEET門脇」、「みやぎ東日本大震災津波伝承館」などを巡りました。311メモリアルネットワークの方々のガイドにより、震災当時の話を伺いました。また、乗船している200人以上の子どもたちの多くは、マンガの街・石巻で街に点在しているキャラクター探しや「石ノ森萬画館」も楽しみました。

福島子どもプロジェクト

震災と原発事故で被災した福島の子どもたちを対象に、国際NGO ピースボートと共同で2011年より実施しています。これまで100人をこえる中高生がピースボートが企画するクルーズやスタディツアーに参加し、世界を旅してきました。

2023年8月6日の「広島平和記念日」をふくむ4泊5日の行程でスタディツアーを開催。福島・南相馬市の中学生7名と戦争・平和・歴史について考える旅を実現しました。

※今年はパルシステム生活協同組合連合会の助成金を受けて実施しました。

一般社団法人 ほやほや学会 | 特産品「ほや」の認知度向上・消費量拡大、品質向上を通じて、東北の振興を進めています。

SUPPORTERS

ラッシュジャパン合同会社
チャリティバンク事務局
岸上 真帆さん

「私たちに何ができるのか」災害発生時にいつも考えます。LUSH（ラッシュ）は英国発のナチュラルコスメブランドですが、復興活動を含めて人権・環境・動物の各分野で活動する非営利団体を応援し、連携しています。本年度もPBVには社内勉強会や被災地訪問等の様々な場面でご一緒させて頂き、皆さんが地域に寄り添う姿勢を拝見してきました。秋田豪雨被害ではPBVに協力いただき、ショップメンバーと一緒に地区ボランティアセンターにて商品を使ったハンドマッサージを実施しました。体験して下さった皆さんの笑顔や会話、実施後ショップに頂いたお声は、どれもがお互い素敵な時間を過ごして心が温かくなる経験でした。改めて「私たちにできること」とは、地域において顔の見える距離で誰かの気持ちに寄り添って、その方の一日を少しでも良くできることだと一同で学びました。これからもPBVと一緒に、私たちなりの方法で被災地域に寄り添える連携をさせて頂きたいと思います。

ご支援・ご協力いただいた皆さま（団体名は略称表記、順不同）

ご寄付や食材・物資・サービスの提供など、様々なご協力を企業、団体、個人の方からたくさんいただきました。災害支援サポーターの皆さまはじめ、お一人おひとりの皆さまに心より感謝申し上げます。

支援金へのご協力

パルシステム生活協同組合連合会

全日本自治団体労働組合

末日聖徒イエス・キリスト教会

Yahoo!基金

ライフキャリアcircle

NTT DATA BUSINESS SOLUTIONS

ロバート ウォルターズ ジャパン

ソウルフラワー震災基金

伊藤工業

アイコープ共生会／イバラキハツタツ／いわき市議会　創世会／エヌ.シー／エバーグリーンパーク／大阪府退職教職員連絡協議会／岡山NPOセンター／岡山マインド「こころ」／核兵器廃絶国際キャンペーン／カトリック磯子教会／カトリック富士吉田教会／カフェベルク／国立市社会福祉協議会／クラシード／クラダシ／河本総合防災／小鳥の森ゴルフパーク／佐原高等学校1年C組／紙上読書会／サンボーズ／社会保険労務士法人アスミル／宗教法人 浄圓寺／新宿区社会福祉協議会／株式会社ジャパングレイス／信頼資本財団／ステートレス／生活協同組合あいコープみやぎ／箭田まちづくり推進協議会／セブン・ジェネレーションズ／ソー写ルグッド／ダイコウニシニホン／高萩音楽団／チバシオチチヨウ／中部電力パワーグリッド／東海市立富木島中学校／東京海上日動火災保険株式会社 Share Happiness 倶楽部／東京青年会議所 北区委員会／東京農業大学第三高等学校／富谷市立東向陽台小学校／都立保谷高校4期生卒業生有志／長野県退職教職員の会 佐久支部／中村工務店／日本財団学生ボランティアセンター／沼津からALOHAを届けよう!／ハーモニーキッズ／東村山市社会福祉協議会／飛行船復興支援プロジェクトスマイルtoスマイル／避難の協同センター／ひらど海てらす／ビルワーク／ビーアートヒーリ／ピースシネマ／ピースボート／ピースボートセンターおおさか／ピースボートセンターとうきょう／ピースボートセンターなごや／ピースボートセンターふくおか／ピースボートセンターよこはま／ふぇみ・ゼミ&カフェ／ふぇみんベトナムプロジェクト ベトナムに教育と笑顔を送る会／二葉幼稚園／ブティックア／フローリッシュ／螢火／ボーダレス・ジャパン／桃五サッカークラブ／山田農場／湯本味噌／横浜市立サイエンスフロンティア高校図書委員会／ラッシュジャパン合同会社／ランド／リコー社会貢献クラブ・FreeWill／FI Lab Square／Global Partnership for the Prevention of Armed Conflict／icocochi chiffon／JAPAN CMC／Komorebi Music／KSBソリューション／MIRA／Music Bar&Floor Tangle／NPOこもれび有志／RYコーポレーション／STUDIO IROHA／S.R.B／UDN SPORTSUSTUS／114回クルーズ アウシュビッツ強制収容所オーバーランドツアー参加者有志／369シヨウテン

Benevity

READYFOR

Yahoo!ネット募金

助成金のご協力

日本民間公益活動連携機構（JANPIA）

特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム

信頼資本財団

日本財団

宗教法人真如苑

一般財団法人 ゆうちょ財団

Give2Asia

活動地域での受け入れに感謝

各地域での活動は、現地で受け入れてくださった住民の皆さま、町内会・自治会・地域団体の皆さまのおかげです。特に災害時には、自治体や社会福祉協議会とも連携し活動を行っています。被災地での活動で、受け入れ、連携、協働してくださるすべての皆さまに感謝申し上げます。

メディアでの紹介 ※時系列

[テレビ] FNN「FNNプライムオンライン」／NHK／石川テレビ／NHK岡山／NHK秋田放送局「秋田NEWS WEB」／AAB秋田朝日放送／秋田テレビ「FNNプライムオンライン」／秋田テレビ／時事通信／秋田放送ABS／ケーブルワン／NHK「首都圏ネットワーク」／NHK「NHK NEWS」／NHK「ニュースLIVE!ゆう5時」／日本テレビ「news every.」／日本テレビ「真相報道バンキシャ」／RKB毎日放送「田畑竜介Groooooow Up」／NHK名古屋放送局／テレビ朝日

[新聞] 中日新聞／熊本日日新聞／秋田魁新報／河北新報／読売新聞／徳島新聞／北陸中日新聞／毎日新聞／佐賀新聞／北陸新聞／東京新聞／北國新聞／東京新聞／ 千葉日報／朝日新聞／日刊スポーツ

[雑誌・書籍] BIGISSUE（連載）、日本健康学会誌

[ラジオ] FM岡山「FreshMorningOKAYAMA」／Choose Life Project「ニュース二度見三度見～社会のことちゃんと考えたいラジオ」／名古屋CBCラジオ「きく!ラジオ」／J-WAVE「HEART TO HEART」

[ネットメディア] TEAM防災ジャパン／日本防災士会／YouTube番組「ミラ☆カルマ」／J-CASTニュース／BIGLOBEニュース／The Japan Times（英）／Sky News（英）／サッカーキング／ジャパン・プラットフォーム（JPF）YouTube／朝日新聞「朝日SDGs ACTION!」／共同通信／ABEMA NEWSチャンネル／NHK NEWS WEB／スポニチアネックス／ハフポスト

代表者メッセージ

ピースボート災害支援センター
代表理事
山本 隆

2023年は、日本国内でも水害の多い年でした。台風被害や豪雨災害などが多発し、秋田県では広範囲の地域で家屋が水没し、コミュニティの再建のために年末まで丁寧な支援活動が続きました。また、海外では長期化しているウクライナ人道支援やトルコ・シリア地震の支援にあたっている現地パートナー団体を支え続けています。
そして、能登半島では、2023年5月に震度6強の地震があり支援を実施しましたが、続いて2024年元旦には多くの方たちが新年を祝うなか、激震がふたたび襲いました。日本海を望む能登半島の美しい風景は一変し、海岸は隆起し津波も発生しました。8万棟以上もの家屋が被害を受けました。半島という地理的難しさもあり、初動期の支援は厳しい課題が山積しました。PBVは、1月2日からスタッフを派遣し、食事や物資などの緊急支援を実施し、その後も避難所の環境改善や仮設住宅の支援など、多岐にわたる支援を継続しています。
ひとたび大規模な災害が発生すると、復旧・復興までは長い道のりがかかります。初動の緊急対応から長期的な支援まで、現地で活動できているのは、被災地に心を寄せて支援を続けて下さっている皆さまのおかげです。皆さまの想いとご協力に感謝申し上げます。被災地の支援は続きます。引き続き、ご支援とご協力をお願いいたします。

スタッフの声

PBVスタッフのショートインタビュー映像を作成いたしました。災害支援にかけるスタッフの思い、その生の声を約2分の動画で発信しています。
PBVには20名以上のスタッフが勤務し、災害が発生すれば被災地に駆けつけます。時には、被災地の現状や教訓を伝えるために、講演や研修の講師を担うこともあります。そして、普段は家族や友人、地域の方たちに支えられている生活者でもあります。

2023年度財務諸表

貸借対照表

[資産の部]	
現金預金	159,903,761
未収入金	7,991,586
棚卸資産	183,040
前払費用	216,514
立替金	0
仮払金	35,202,206
流動資産合計	203,497,107
固定資産合計	337,242,545
資産合計	540,739,652
[負債の部]	
未払金	25,491,179
未払費用	4,336,095
前受金	0
預り金	511,197
未払法人税等	151,000
流動負債合計	30,489,471
正味財産合計	510,250,181

正味財産増減計算書

経常収益 合計	255,658,865
事業収益	14,323,101
受取補助金等	188,474,716
受取 寄付金	52,623,989
雑収益	237,059
経常費用 合計	193,353,940
事業費 計	186,857,309
管理費 計	6,496,631
当期経常増減額	62,304,925
法人税	151,000
当期一般正味財産増減額	62,153,925
一般正味財産期首残高	112,555,570
一般正味財産期末残高	174,709,495
当期指定正味財産増減額	335,540,686
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	335,540,686
正味財産期末残高	510,250,181

※財務諸表の詳細は、公式WEBサイトに公開しています。

JOIN US

すべての人々がお互いに助け合える社会へ、皆さまのご支援をお願いします。

ピースボート災害支援センターの活動は、皆さまのご支援で支えられています。
皆さまからお預かりした寄付金・募金は、被災者・被災地の支援活動や防災・減災教育活動の活動費として大切に使用させていただきます。

サポーターになって応援する

【最も寄付を必要としている課題】

災害発生時の初動支援と長期にわたる継続支援

毎月寄付制度｜災害支援サポーター

国内・海外を問わず、頻発する災害。多くの支援金は報道の量に比例することから、発災直後に支援金が集まる傾向にあります。しかし多くの被災地では、報道されなくなってからも復興まで長期に渡って支援が必要になる現実があります。PBVの継続的な活動を月額で支援する「災害支援サポーター」への加入をぜひお願いします。

月額**1,000**円からご支援いただけます
（お支払いはクレジットカード決済となります）

※災害支援サポーターは毎月自動引き落としです（1回目の決済日は申込当日、翌月以降は毎月1日が決済日です）。

詳細はこちらから
https://pbv.or.jp/monthly_supporter/

自由な金額の寄付で応援する

今回のみ寄付

定額・連続ではない、その都度、自由な金額でのご寄付もありがたくお受けしております。お支払いは、郵便振替・銀行口座・クレジットカード決済からお選びいただけます。

詳細はこちらから
https://pbv.or.jp/donate/donate

郵便振替	郵便振替口座：00120-9-488841（※下6桁は右ツメ） 口座名：社）ピースボート災害支援センター
銀行口座	住信SBIネット銀行　支店名：法人第一支店　口座番号：（普）1804859 口座名義：一般社団法人 ピースボート災害支援センター
その他取引先銀行	みずほ銀行、三菱UFJ銀行、ゆうちょ銀行

ピースボート災害支援センターは、世界的なCSRプラットフォームサイト「Benevity」に登録されています。法人や社員からのご寄付の方法としてご活用いただけます。Benevityでは、PBVの活動全体を支援する寄付のほか、個別の災害支援プロジェクトを指定してご寄付いただくことも可能です。お勤め先企業の社会貢献活動の一環として、是非お役立てください。

benevity

詳細はこちらから
https://causes.benevity.org/causes/392-5747690567319_c8fb

一般社団法人 ピースボート災害支援センター

ピースボート災害支援センター（PBV）は、東日本大震災を受けて2011年4月に設立された非営利団体です。「人こそが人を支援できるということ」をテーマに、被災地での災害支援活動や、すべての人々が互いに助け合える災害に強い社会作りに取り組んでいます。海外29ヶ国・国内78地域での被災地支援を実施し、災害支援現場で一緒に活動したボランティアの数は11万人を超えました。現場経験を活かした研修や訓練を実施し、防災・減災教育にも力を入れています。

2023年度 活動報告
発行：一般社団法人 ピースボート災害支援センター
発行日：2024年10月18日
編集：河野桃子、小林深吾、上島安裕
デザイン：森大樹
写真：Social Good Photography, Suzuki Shoich

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075　東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A
TEL：03-3363-7967
E-MAIL：kyuen@pbv.or.jp
URL：https://pbv.or.jp/